

平成22年度 シラバス	学年・期間・区分	5年次・前期(MS、EI、Cの3クラス)・A群	
	対象学科・専攻	機械・電気電子・電子制御・情報・土木工学科	
技術倫理総論 (Engineering Ethics)	担当教員	鮫島俊秀 (Sameshima, Toshihide) 松田忠大 (Matsuda, Tadahiro) 中村隆文 (Nakamura, Takafumi) 上小鶴博 (Kamikozuru, Hiroshi) (技術士) 井内祥人 (Iuchi, Yoshihito)(技術士) 門松経久 (Kadomatsu, Tsunehisa)(技術士)	
	教員室	鮫島：一般教育科棟3階 (Tel. 42-9045) 松田：一般教育科棟3階 (Tel. 42-9044) 中村：一般教育科棟3階 (Tel. 42-9043) 上小鶴・井内・門松：非常勤講師室 (Tel. 42-2067)	
	E-Mail	鮫島：t_samesi@kagoshima-ct.ac.jp 松田：t_matuda@kagoshima-ct.ac.jp 中村：nakamura@kagoshima-ct.ac.jp 上小鶴：hiroshi_kamikozuru@yahoo.co.jp 井内：iuchi-yoshihito@pref.kagoshima.lg.jp 門松：t-kadomatsu@m-technos.co.jp	
教育形態 / 単位の種別 / 単位数	講義 / 履修単位[講義] / 2単位		
週あたりの学習時間と回数	〔授業(100分) + 自学自習(200分)〕×18回		
〔本科目の目標〕 科学技術は我々に多大な恩恵をもたらしてきた一方で、多くの問題もまた生み出してきた。現在、科学技術に携わる「技術者」にとって必要なものは、その功罪を知ること、そして「科学」や「技術」の根幹部分を問い直し、「技術者として倫理的に生きる」とはどのようなことであるのかを、自分自身で考え決断する態度であるように思われる。 昨今、技術者に求められる社会的責任は大きく、そして多様化したものであるが、歴史的・思想的背景や法的責任、そして実際に起こった事例などを多角的に検討・分析するによって、あるべき技術者の概要を捉えてゆくことが本科目の目標である。 また、最低限必要な、論文・レポート作成能力の育成も、本科目の大きな目標のひとつである。			
〔本科目の位置付け〕 本科目はこれまでの人文科目（主に社会科科目）で学んだ基礎的教養をもとに、技術者としての自覚と責任を再認識するためのものであると同時に、専攻科2年次の「技術倫理」とも関連する科目である。			
〔学習上の留意点〕 講義内容をよく理解するために、毎回、前回の講義を参考に2時間程度の予習をし、授業時間での質問等に対応できるようにしておくこと。また、講義終了後は、復習として2時間程度の演習問題等の課題に取り組むこと。疑問点があれば、その都度質問すること。			
〔授業の内容〕			
授 業 項 目	時限数	授 業 項 目 に 対 す る 達 成 目 標	
1. 科学技術の歴史 (鮫島)	4	歴史的観点から、科学および技術者の在り方について理解する。	
2. 科学技術と法 (松田)	6	技術者の負う法的責任について理解する。	
3. 科学哲学概論 (中村)	6	ポパー、クーン、クワインなど、科学哲学上の論争の意義について理解する。	
中間試験	2	授業項目1～3までの内容について達成度を確認する。	
4. 技術者と実務上の諸問題	18	技術士の視点から、技術者の関係する実務上の諸問題とその解決法を理解する。 技術士の講義と演習形式の授業の組み合わせで実施する。	
期末試験 試験答案の返却・解説		授業項目4の内容について達成度を確認する。 各試験において間違った部分を理解できる。	
〔教科書〕なし 〔参考書・補助教材〕授業時配布プリント等			
〔成績評価の基準〕各担当教員の実施する試験またはレポート課題（各100点満点）の平均点で評価する。			
〔本科（準学士課程）の学習教育目標との関連〕 4-a 〔教育プログラムの学習・教育目標との関連〕 4-2 〔JABEEとの関連〕 (b)			